

マッド・メンガズ

〈カラー作品〉アメリカ映画

ハーベイ・カイテル
ティサ・ファロー
ジム・ブラウン
タニア・ロバーツ

製作ジョージ・ハリイ 監督・脚本ジェームズ・トバック
撮影マイケル・チャップマン 松竹・富士映画共同配給



殺しの前にはバツハを弾いた…
カーネギー・ホールをめざす黄金の指を持ちながら
そいつは今、暴力やレイプの興奮に陶酔している！



FIN GERS



●黄金の指が弾くバッハのトッカータ…

その旋律が男の狂気を増幅した!

マンハッタンの下町を「バッハのトッカータ」が場違いに流れる。ジミー・アンジェレリ(ハーベイ・カイテル)。カーネギー・ホールを夢見る若きピアニスト。一瞬、自らの叩き出す旋律に若者は激しく陶酔した。どこにでもいそうな音楽青年。しかし、彼はもう一つ夜の顔を持っていた。それは、暗黒街を股にかけた借金取り立て人。相反する生きざまに複雑に揺れ動く孤独な魂。やがて、組織が巨大な罠を仕掛けた時、男の繊細な神経は狂気に変わり、凄まじいバイオレンス・ポイントに向かって一気に突き進んだ——!

●ドギモ抜くハード・バイオレンス

&ハード・セックス!

全編ドギモ抜くバイオレンスとセックス描写で迫る異色の犯罪ドラマ「マッド・フィンガーズ」。

米プレイボーイ誌は「たちこめるリアリティ。全編これ現代で、全編ドラマチック」と大絶賛。同じくアフター・ダークも「タクシー・ドライバー」より戦慄的で「ラストタンゴ・イン・パリ」よりエロチック」と快哉。しかし、倫理コードぎりぎりの暴力と性の波状描写が災いし、完成後二年間、配給会社が公開を見合わせたという因くつきの作品だ。監督・脚本はニューヨーク派の新人ジェームズ・トバック。製作のブルート・プロは米三大化粧品メーカー「ファーマージュ」の子会社。

■スタッフ■

製作……………ジョージ・バリー
監督/脚本……………ジェームズ・トバック
撮影……………マイケル・チャップマン

■キャスト■

ジミー・アンジェレリ…ハーベイ・カイテル
キャロル……………ティサ・ファロ
ドリームス……………ジム・ブラウン
ジュリー……………タニア・ロバーツ

●ゲーな肢体が強烈無比、

「ニュー・エンジェル」タニアの魅力!

ジミー役には、いまやニューヨーク・シネマには欠かせない顔といわれる「タクシー・ドライバー」「スペース・サタン」の売れっ子ハーベイ・カイテル。大都会の狂気を複雑な性格演技で把えて秀逸。これに絡むのが、「狼は天使の匂い」のティサ・ファロー、「エル・コンドル」のジム・ブラウン、そして、「チャーリーズ・エンジェル」の新レギュラーに決まったタニア・ロバーツという顔ぶれ、中でもギャングの情婦に扮したタニア・ロバーツが、カイテルと激しく絡むセクシー・ショットには目を見張ること受け合い。ボディ・ラインを強調した彼女の真紅の水着が何とも迫力!

●ニューヨークがリアルに息づく

ニュー・クライム・アクション!

グリニッチ・ビレッジ、ソーホー、アパー・イーストサイド、カーネギー・ホール…ニューヨークのリアルな外景をダイナミックに撮りまくったカラー撮影は「タクシー・ドライバー」「ラスト・ワルツ」の名手マイケル・チャップマン。

そして、音楽にはバッハのEマイナー・トッカータを初め、ドリフターズ、シフォンスら、50・60年代のヒット・ポップスが満載。主人公が愛用するラジカセから絶えず流れ、この狂気のドラマに絶妙なスパイスを利かせている。そこはかたないリアリティと殺気、そしてエロス。これはNYという特殊な背景なしでは絶対生まれ得なかったシティ・ムービーの傑作だ!



'81年新春第2弾!

戦慄の
ロードショー

新宿京王地下 (356)
3518